

## 地方庭園文化の比較『出雲と琉球・薩摩』

木 佐 幸 佳

### 1. はじめに

庭園が庶民の暮らしに広まったのは江戸時代中頃からといわれる。その理由として、この頃から平穏な世となり、全国への旅も盛んになり各地の庭園を見ることにより同じ形の庭園が全国に普及していったようである。その中で、出雲や津軽地方に特有の庭園様式が残っていることがわかったので、昨年、出雲地方の『出雲流庭園』と津軽地方の『武学流庭園』の特徴をまとめた。

今回、さらに琉球・薩摩地方にも特色のある庭園があることがわかったので、出雲地方との比較を行ってみた。

### 2. 琉球・薩摩地方の庭園の特色

この地方の庭園にも、その土地の気候、風土、歴史や文化による影響があり、次のような特色が見られる。

#### ①気候による影響（一年中暖かく、台風が多い）

- ・台風の風向きが一定でないので、防風林が特定の形で植えられないことがない。また、建物の向きや庭園の位置もパターン化されておらず、建物は風当たりをなるべく少なくするため寄せ棟形式が多く、形も正方形に近い。そのため、建物の中に中庭を作るという形は少なく、路地庭、坪庭など狭い範囲の庭園も少ない。
- ・庭木は建物の近くに大木を植えることは少なく、樹種もソテツ・シュロ・フェニックスなどが使われるため、庭園は広々とした南国的な感じである。また、植栽には内地のような一定の法則的なものはあまり見られず自由であり、主木という考えはない。
- ・薩摩地方は火山灰土壌で水条件が悪いため、比較的枯山水庭園が多い。琉球も水不足のため同様の傾向がある。そのため、他地域とは異なり宗教との関わりは希薄である。当地方の枯山水庭園は築山式が多く、正面奥に築山で枯滝を組み、その手前の平地部は地面を水平にする。
- ・道路から玄関が見えないようにする『ヒンプン』という目隠し塀を、門と玄関の間に設置する。石垣や板塀、生垣で作られており、風除け効果もある。もともと琉球で発達したものであるが、薩摩地方の南側でも見られる。
- ・『ヒンプン』の裏には水鉢の大きな物を置き、内地には見られない盆山とすることが多い。この盆山は内地では平安末期～室町時代に流行したものとされる。
- ・琉球では多孔質の琉球石灰岩を庭石として使っているため、かなり異質な感じがする。また、京都風なコケを使った形態は湿度の関係から見られない。

## ②地理的条件や歴史による影響

- ・この地方の庭園の特色は中国大陸の影響を受けていることである。その理由として、地理的に近いこと、薩摩は密貿易を行うなど世界と接触する革新性があったこと、琉球では江戸時代中国と冊封使船による交易を行っていたことなどがあげられる。
- ・庭園の築山部は中国の山水画的な表現をした石組が多く、庭園内には回遊路が見られ築山部で石段が作られているのも特色である。枯滝がある場合、石橋と石段で通路になっており、まさに山水画風である。また、石橋も中国的で琉球ではこれが顕著であり、石材加工の技術が非常に高い。
- ・内地では姿を消した中国的影響の一つである洞窟石組がこの地方に残されており、かなり異国的な感じのする塔灯籠は迫力があり、岩山とか築山上部などに置かれている。また、庭石への刻字も特色の一つである。
- ・薩摩では明治時代の廃仏毀釈が完全な形で行われた歴史を持ち、寺院庭園が少なく神社庭園が多い。琉球でも、太平洋戦争でかなりの寺院が焼かれたことや仏教との関係が薄く、むしろ祖先崇拜が強いため寺院庭園が少ない。そのため、この地方では庭園と宗教との結びつきが少ないようである。

## ③その他

- ・当地方では江戸時代以前の様式が残っているところがあり、江戸中期以後に全国に広まった庭園の定型化が伝わらなかったようである。また、茶文化が発達しなかったため、茶庭的手法がほとんどなく、蹲踞や飛石、敷石はほんの一部の庭園にしかない。
- ・薩摩地方の知覧町には国の名勝指定となっている7つの庭園群が一般公開されているが、いずれも元武家屋敷で当時の薩摩藩では武士の力が強かったことが感じられる。

## 3. 出雲流庭園の特色

出雲地方では冬の季節風を防ぐ築地松のある屋敷に同じ形態の庭園があり、これが出雲流庭園といわれている。この様式が発生したのは江戸末期で、最も発達したのが明治から大正時代にかけてであり、南向きの家屋と北西向きの築地松、屋敷の南西部に位置する庭園などパターン化されている。また、単なる枯山水庭園ではなく茶庭的雰囲気を持っていて、松平不昧公の影響をうけた茶文化が大きく関わっている。

このあたりが琉球・薩摩地方とは大きく異なっている。しかも、一般民家にこの形が見られることから、この地域の精神的な豊かさが感じられる。

一方、築地松の変遷を見ると、屋敷周りをクロマツのみで囲むようになったのは江戸末期から明治時代にかけてであり、築地松を美しく刈る『陰手刈り』は明治の終わり頃から始まったといわれている。これらのことから、出雲流庭園は築地松と同時期に一体となって洗練されてきたのではないかと思われる。その当時、出雲地方は社会的にも経済的にもゆとりのある時代だったことが想像され、今後そのあたりを調べてみたい。

#### 4. 今後の展開

津軽、出雲、琉球・薩摩の3つの地方の共通点は、古い音韻構造による言語的特色が見られるという。要するに方言が強すぎて理解しにくく、そのため地方の庭園文化が発達し保存されたのではないかとされている。また、津軽は宗教との関係、出雲は茶文化との関係、琉球・薩摩は大陸との関係があり、各地方の風土、歴史が色濃く反映されている。これらのことは大変興味深く、今後も調べてみたい。

出雲地方はまた築地松の景観でも全国的な特色を持つ。屋敷林の景観として砺波平野（富山県）、大井川町（静岡県）、胆沢町（岩手県）などが有名であるが、家の造りまでパターン化がされているのは出雲だけのようなのである。また、屋敷林を美しく手入れしているのも出雲地方の大きな特色である。

このように出雲地方に残る庭園様式や築地松は、全国でも貴重な地方色を持っており誇るべき財産である。このことを我々はもっとよく認識する必要がある、全国に向けて情報発信するための手法についても考えていきたい。

#### 5. おわりに

昨年、庭園研究分科会では寺院をはじめとする池のある庭園を見て回った。それぞれの庭園はその土地の状況に応じて造られており、抹茶を飲みながら庭園の感想を述べあうことは大変楽しく有意義であった。出雲地方の人たちは、昔からこのように庭園を見てお茶を飲みながらいろいろ話をしていたのかと思うと、充実した時間を過ごす地方の良さをつくづく感じている。

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 参考文献：『出雲流庭園（歴史と造形）』 | 小口基実、戸田芳樹 |
| 『琉球・薩摩の庭園』          | 小口基実      |
| 『築地松物語』             | 島根県・斐川町   |

